

町田市議会議員・納税者主権

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-2 2

☎042-724-2171

「保守の会」派室

自宅042-795-7361



主要都市は政令指定か中核市

大都市の中には政令指定都市（実質、人口 80 万人以上）があり、警察機構を除いて現行の府県とほぼ同等の権限を有しています。そのほかの大都市では、中核市（現在、人口 20 万人以上に変更されている）と呼ばれる自治体がありますが、政令指定都市に準ずる都市で都道府県から権限を多数委譲される自治体となります。東京都では八王子市がそれになっており、現在、全国で 54 市が中核市となり、別に 10 市がその候補市となっています。また、相模原市は一度中核市になった上で、後に政令指定都市に移りました。他に全国の 6 市も政令指定都市に移行済です。

町田市は、法律が定める「中核市」の資格をすでに満たしています。私は、以前に町田市が中核市になることを求めましたが、市長からそのメリットがないと退けられています。ただし、中核市は身近な分野の行政で自前の児童相談所を設置することができます。また、全国の中核市は連携をとっており、同規模都市で相互の災害救援がスムーズに実施されます。そうした観点から、私は中核市へ早期に移行することが町田市の課題と考えています。



町田市職員の職業偏見

民間の仕事に「営業」というものがあります。物品やサービス、あるいは情報等を販売することを主な目的にした仕事と言えましょう。その販売を行う仕事が営業職であり、企業や個人、あるいは官公庁を相手にして契約を果たすことを目的にしています。

そうした営業の仕事を行う人を町田市役所の人＝公務員はどのように見ているのでしょうか。ある時、「営業さんは、自社のいいことばかりしか言わない」と、聞き捨てならない言葉を耳にしました。会議の中で用いられたので、町田市役所全般でその解釈をしている可能性があると思われます。私は、政治の仕事をするまで一貫して営業マンをしていたので、営業職を卑しめる言葉を聞くときちんと反論をしておかないと思ってきました。これから先に町田市役所を訪れた営業職の人々が、職員から「土農工商」の見地で不当な偏見、差別意識で見られたり、不当な言いがかりをつけられないように正してまいります。それが、民間で営業職に長く就き、現在はその議員として選出されている自分の役割と考えています。



営業マンとして民間で長く働き、政治の道に入った直後に撮影したもの。今のイメージとはだいぶ異なる印象？

★ 政党無所属・市議会は保守の会 mail : yoshidaben@gmail.comURL <http://j-expert.jp/> 動画 <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

メール送信

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ（自宅）

町田市議会議員 **3回連続トップ当選**

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



左上はブログ
右上は新規の
ビジュアルサイト



インターン生募集中

小学校作品展学校比較

隣接している南成瀬小学校と高ヶ坂小学校の「作品展」を鑑賞しました。

平面作品（絵画）の中では南成瀬小学校の文字を図案化した作品が気に入りました。高ヶ坂小学校では「龍」を描いた作品が気に入りましたが、モノクロと言う点で墨絵のようなこだわりを感じました。立体作品では、南成瀬小学校の絞りの布地を用いたクッションが一番目を引きました。伝統技術である「絞り」の技法が用いられているのが気に入りました。高ヶ坂小学校では合作のビニール作品を選びましたが、入口が天井からサイドまでビニール作品で覆った形でした。

すぐ近くにある小学校ですが、展示の作品傾向が全く異なっていました。南成瀬小学校においては、個人作品に優れた作風が現れ、高ヶ坂小学校では集団作品に優れた作風を感じました。これは今年の傾向か、それとも基本的な学校の風土か、また来年も比較して鑑賞することの大切さをうかがわせるものでした。合わせて、こうしてみると、学校教育において美術系、家庭科系の授業も欠かしてもらいたくないという印象を持ちました。



戦場とジャーナリストの役割

戦争あるいは紛争のさなかにあるシリア国内でとらわれていた、フリージャーナリストの安田純平さんが3年3ヶ月ぶりに日本国内に戻ることができました。日本政府がその地域を危険地帯に指定し、渡航を容認していなかったことがあって、安田純平さんには自己責任を求める声もあり、帰国にかかわる費用の負担をするべきであるという極端な意見もネットメディアに出ていました。

私の見解は、以下の通りです。

会社所属のジャーナリストならば、国や会社の指示通りに動けばよいでしょうし、社内においてデスクワークをするか、アメリカ軍などに従軍して取材する方法で済むでしょう。

しかし、戦地の事の深刻さを世界の人々に伝えるには、フリージャーナリストがリスクをかぶるほかないだろうと思っています。

関連して、地方議員はデスクワークよりフィールドワーク、重要なものは現場感覚の判断だと思っています。一定の危険が予測されても、私は自身の足で現場を訪ねたいと思っています。



原発事故後に福島の帰宅困難区域を単独取材

★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧ください。